

発電所は、どうして白いのですか？

1.原子力発電所見学の感想

7月24日、関西電力大飯原子力発電所を見学した。

夏休み実施になったため、保護者の方、きょうだいも一緒に見学することになった。参加されたお母さんからメールでお礼をいただきました。

日頃、電気の大切さについてあまり意識はしませんでした。今回、原子力発電所を見学できるとお聞きし、せっかくの機会ですので、無理をいって参加させていただきました。原子力に関しては、いろいろな意見がありますが、素晴らしい設備を見、安全に工夫されていることを知り、実際に見せていただき、行って良かったなと思っております。それにしても大きな、きれいな、自然いっぱいのところでした。イメージが変わりました。子どもも真剣にメモをとっており、夏休みのよい体験になったことと思います。私も一緒に勉強させていただきました。

子どもの感想である。

行く前は、ちょっとくらい海の水がよごれたりするのかなあと思っていた。でも行って、ほう水口を見てみると、近くの海水がすきとおっていた。環境にもよくて、ウランの再利用もそのうちできると思います。あのウランをほかんしているプールも放射線が出ないように工夫もいろいろしている。あぶないと言う人もいるけど、あれだけ気をつけて、あれだけ機械やコンピュータを使っていれば、何も心配することはないと思いました。

最初に驚いたのは、思ったよりも発電所が大きかったことです。わたしは、「発電所は、どうして白いんですか？」と質問しました。すると、「回りの緑から、ひきたてるため」と教えてくださいました。こんなところまで工夫していました。また、発電所の中も、ビデオなどを使って、くわしく、わかりやすく、教えてくださいました。ありがとうございました。

2.発電所見学の目的

先生方の中に原子力発電賛成派も、また反対という方もいることでしょう。でも具体的な数値、事実を抜きにして語ってはいけないと思います。私たちがやらなければならないのは、まず具体的な事実を教えていくことです。そこで、原子力発電所や原発のある地域に行って、直接見てこなければわからないことがいくらかでもあります。

「エネルギー教育全国協議会 第二期エネルギー教育活動報告」p.3より

一昨年度、6年生を担当した時、広島への修学旅行に「はかるくん」を持って行った。モノがあると、意欲も増す。平和公園や、許可を得て平和資料館まで「はかるくん」を持ち込んだが、特に値は変わらなかった。(当然であろう)

しかし、計画が遅れ、原子力発電所見学までは時間が作れなかった。ただ、修学旅行後すぐ、悲しいJCO臨界事故が起こったが、事実を知ろうとする授業ができた。(新聞、テレビ報道では、数値をしっかりと確かめること)

今年度はぜひとも、子どもたちに原子力発電所を見せたかった。

まず、「見ること」、「知ること」、そこから学習を始めたかったからである。

3.発電所見学の準備

今年3月(昨年度)に入り、関西電力姫路支店の方が、学校にきてくださった。たまたま、クラス児童の保護者の方だった。

学校で、エネルギーの授業をしていることを子どもが家で話していたため、わざわざ出向いてくださったのである。

話の中で、

- ①必要な資料をいただけること
- ②学習の相談にのっていただけること
- ③カリキュラムに発電所見学を入れたいこと
- ④4月の始めに、5、6年生の先生から連絡を入れること
- ⑤連絡をくださること

を確認した。このことは、校長先生にも聞いていただいた。

4. 発電所見学の計画進行

①4月の時点で、「総合的な学習」の年間計画案を出す必要があった。少人数学習と総合的な学習の教員加配に伴う書類報告のためである。

その際、昨年度末の計画案の夏休みの所に、そっと「原子力発電所見学」と書き加えた。研究推進委員会の年間カリキュラム案は、職員会を通過した。

②4月下旬、初めての参観日のあとに、保護者の前で、1年間の方針を話す。

その中で、原子力発電所に見学に行く計画があるということ、夏休みに入ってから7月23日か24日になるかもしれないことを伝えた。

③5月に、加古川営業所の方と話し合い、7月24日実施で計画を進めていただくことにした。

私のクラスは、40人。それに教師、営業所の方が入ると40人を超える。そこで、5年生、先生方、お家の方々も参加いただけるように考えた。学級通信を通じて、計画を伝えた。

④6月の学級懇談会で、当日の計画を出し、参加の希望をとった。

その結果、子ども以外に、大人23人、きょうだい15人が集まる。

予想外の参加者に、営業所の方も驚かれた。原子力に対する関心は高かった。

⑤職員会前の運営委員会で報告する。

谷和樹氏は「授業で“学び方技能”をどう育てるか」（明治図書）で言われている。

これを職員会議などで提案するといくら時間がたってもらちがあかない。
この場合、職員会議では「提案」ではなく「報告」とする。

私も、同じ手法になった。

ところが、これは問題にならなかった。「学年の計画は、その学年で進めればよい。学年の活動をいちいち職員会で報告すると、報告ばかりになる。報告はなくてよい」と、1人の先生が発言されたからである。この意見には、考えるところもあったが、何事もなく、職員会も通過することになった。

⑥念を押して、教育委員会に「校外学習願」を出す。

校長先生に、「教育委員会にも連絡しておいたほうがいいですか。」と言うと、少々当惑されていた。私は、「万一、事故があったときに教育委員会が知らなかったとなれば、よくないと思います。」と主張した。すぐに、その場で電話していただいたが、返事がなかった。

次の日、教育委員会から、事前に「校外学習願」を出すようにと連絡があった。教育委員会も通して、夏休みの原子力発電所見学ができるようになった。

発電所見学についての子どもたちの感想

行く前は、どんなところだろうかと思ったけど、行ってみると、すごいところだった。お母さんが、「とても広くてすごい！」と言っていた。お母さんは、「原子力は安全だというけど、本当にだいじょうぶやろか？」と言いながら見て回った。わたしは、また行ってみたいと思った。すごく楽しかった。原子力はペレットたったひとつで、家の半年分の電気がとれる。でも、あぶない。どっちがいいのだろう？ つくるのはあぶないかも知れないけど、使わなかったら、半年分の電気が作れない。

大飯発電所に行って、原子力エネルギーのでき方、どういうふうに電気が運ばれるか、たくさんのがわかりました。

このことを家族に話すと、「あーあ、やっぱり行っとけばよかった！ そうや、また行こうか。」とお母さんが言いました。弟も行きたいと言っていたのですがじやまになると悪いからと言われたので、やめました。また、家族で行くことにしました。

行く前は、ウランはきけんなのかなと思っていました。でも、今回の見学で、安全にしているというのがわかりました。先生がインターネットで、「原子力発電所の近くに住むので、じゅみょうがへる率」を見せてくれたとき、0.2日でした。そのことがよくわかりました。水をとにかえるとき、大変そうです。でも、水は、放射線をおさえるから、安全なのですね。水の大切さもわかりました。勉強になりました。意外と自然の中なので、びっくりしました。

バスの中では、いろんなじつもんが出て、よくわかりました。原子力発電所とはどんなところだろうなあ、とバスの中で思っていました。いろいろ気を使ってくださって、ビデオを使いながらできるだけわかりやすく説明してくれて、ありがたかったです。また行ってみたいです。

原子力発電所の面積は、小学校くらいだと思っていたら、甲子園の50倍だなんて、驚きました。回りも木などに囲まれていて、自然がいっぱいでした。働いている人は、原子力発電所で働くのに、10年も訓練しているなんて、大変だなあと思いました。もし、地震が起きたら止まるなんて、安心できるしくみがありました。本物のウランを見て、さわってみたいです。